

映画『ガザ回廊』上映会

～～ガザとイスラエル、虐殺と倫理破壊の暴力に迫る～～

昨年末から3週間以上にわたって続いたイスラエルのガザ攻撃で、パレスチナ人1300人以上が殺害され、約6000人が負傷し、およそ5万人が住む家を失いました。無差別大量虐殺——ガザで起きていることを最も精確に言い表す言葉——、私たちがその3週間にだけ注目して心を痛めているのであれば、またすぐに、ガザは忘れ去られ、同じような虐殺が開始されるでしょう。ガザでパレスチナ人がこれ以上殺されるのを食い止める。それはまず、1948年以来一貫してイスラエルがパレスチナ人へと振るってきた人間性剥奪と占領・虐殺の暴力が今回のガザでも繰り返されている事実を知ることから、そして1000人の殺戮でやっと事態の深刻さへと目を向けるような私たちの「倫理」の荒廃もまた認めることから、始めなくてはならないでしょう。

その上で、ガザで占領と封鎖と虐殺のもとで生きるとはいったいいかなる経験なのか知り、時間も空間も越えて結ばれる世界中の無数の「ガザ」の叫びのこだまから、いま・この「ガザ」へと「否」の声を上げなくてはなりません。さらには、他者の存在の否定という暴力に浸潤されたイスラエル社会——国民の9割もがああ殺戮を支持——、またその社会へと圧倒的に不利な闘いを強いられつつも異議を唱える内部の者たちの姿とを、私たちは見つめなくてはならないでしょう。

今回は、パレスチナ人の命を奪い、イスラエルに住まう者たちをも深く蝕む、その暴力とはいったい何なのかを考えたいと思います。手がかりとして、まず2001年の侵攻下ガザを映したドキュメンタリー映画『ガザ回廊』を上映し、次にイスラエル国内の兵役拒否者や軍事侵攻・占領に反対の声を上げる者たちの活動を報告します。

2009年2月11日[水・祝] 14:00～17:00(13:30開場)

会場：京都大学吉田キャンパス 総合人間学部棟1階 1102大教室 (資料代 200円)

プログラム 第1部 映画『ガザ回廊』上映 14:00—
第2部 学生による報告と議論 15:30—

・『ガザ回廊』解説 ・イスラエル国内の動向報告 ・ガザ虐殺とホロコースト

～映画『ガザ回廊』～

2001年、第二次インティファダ勃発直後、イスラエル軍の侵攻と封鎖下のガザ。銃撃・ミサイル投下・家屋破壊・毒ガス兵器…。あらゆる暴力に晒されるガザの姿と、そこでの生がいかなるものかをつぶさに証言する住民たちを、カメラは精緻に追っていく。ジェームズ・ロングリー監督、2002年、74分。



【主催】京大人環および総人学生 『ガザ回廊』上映有志

【共催】京都大学大学院人間・環境学研究科 岡 真理 研究室

【問い合わせ】 tel. 090-9923-4662 (京大院生・熊本拓矢)

e-mail. takuya0417@hotmail.com (同上)

【企画情報ウェブサイト!】 http://wiki.livedoor.jp/p_semi2009